

## 統合インストールガイド

# Novell® Identity Manager

**4.0.1**

2011 年 04 月 15 日

[www.novell.com](http://www.novell.com)



## 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の下で提供される製品または技術情報はすべて、米国の輸出管理規定およびその他の国の輸出関連法規の制限を受けます。お客様は、すべての輸出規制を遵守し、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、[Novell International Trade Services の Web ページ \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) を参照してください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2011 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複製転載することは、その形態を問わず禁じます。

Novell, Inc.  
404 Wyman Street, Suite 500  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.  
[www.novell.com](http://www.novell.com)

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell マニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

## Novell の商標

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

## サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

# 目次

このガイドについて	5
<b>1 統合インストーラの概要</b>	<b>7</b>
1.1 統合インストーラとスタンドアロンインストーラ	7
1.2 ドライバの設定	8
1.3 Identity Manager 4.0.1 Standard Edition と Advanced Edition のインストールにおける相違点	9
<b>2 Identity Manager のコンポーネント</b>	<b>11</b>
2.1 メタディレクトリサーバ ( 識別ポータル、メタディレクトリエンジン、およびリモートローダ )	12
2.2 サポートされているプロセッサ	12
2.3 サーバオペレーティングシステム	12
2.4 監査とレポート	13
2.5 ユーザアプリケーション	14
2.6 役割マッピング管理者	14
2.7 iManager、Designer、および Analyzer	15
2.8 Web ブラウザ	16
2.9 識別ポールの構造	16
2.9.1 セキュリティ	17
2.9.2 データ	17
2.9.3 システム	17
<b>3 システム要件</b>	<b>19</b>
3.1 サポートされているプラットフォーム	19
3.2 リソースの要件	20
<b>4 Identity Manager のインストール</b>	<b>21</b>
4.1 ISO ファイルのダウンロード	21
4.2 物理メディアまたは ISO イメージを使用した新規インストール	23
4.2.1 インストール	23
4.2.2 環境設定	24
4.3 インストール後の処理	34
4.4 サイレントインストールと環境設定	35
4.4.1 サイレントインストール	35
4.4.2 サイレント環境設定	36
<b>5 Novell Identity Manager 製品を有効にする</b>	<b>37</b>
5.1 Identity Manager 製品のライセンスの購入	37
5.2 プロダクトアクティベーションキーのインストール	37
5.3 Identity Manager およびドライバのプロダクトアクティベーションの表示	38
5.4 Identity Manager のドライバの有効化	39
5.5 Analyzer の有効化	40
5.6 Designer および役割マッピング管理者の有効化	40

<b>6 Identity Manager のアップグレード</b>	<b>41</b>
<b>7 Identity Manager のトラブルシューティング</b>	<b>43</b>
<b>8 Identity Manager のアンインストール</b>	<b>49</b>
8.1 GUI のアンインストール . . . . .	49
8.2 サイレントアンインストール . . . . .	50

# このガイドについて

Novell Identity Manager 4.0.1 は、アプリケーション、ディレクトリ、およびデータベース間で情報を共有するためのデータ共有および同期サービスです。このサービスでは、分散された情報をリンクし、ユーザは識別情報の変更時に指定システムを自動的に更新するポリシーを設定できます。

Identify Manager は、アカウントプロビジョニング、セキュリティ、シングルサインオン、ユーザセルフサービス、認証、認可、自動化されたワークフロー、および Web サービスの基盤になります。Identify Manager を使用すると、分散された識別情報を統合、管理、および制御できるため、適切なユーザに適切なリソースを安全に提供できます。

このガイドには、現在の環境で役立つ Identity Manager システムのインストール、アップグレード、またはアンインストールの方法に関する情報が記載されています。

- ◆ 7 ページの第 1 章「統合インストーラの概要」
- ◆ 11 ページの第 2 章「Identity Manager のコンポーネント」
- ◆ 19 ページの第 3 章「システム要件」
- ◆ 21 ページの第 4 章「Identity Manager のインストール」
- ◆ 37 ページの第 5 章「Novell Identity Manager 製品を有効にする」
- ◆ 41 ページの第 6 章「Identity Manager のアップグレード」
- ◆ 43 ページの第 7 章「Identity Manager のトラブルシューティング」
- ◆ 49 ページの第 8 章「Identity Manager のアンインストール」

## 対象読者

このガイドは、計画を立案し、Identity Manager をネットワーク環境に実装する管理者、コンサルタント、およびネットワークエンジニアを対象としています。

## フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか [www.novell.com/documentation/feedback.html](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスしてコメントを記入してください。

## マニュアルの更新

このマニュアルの最新のバージョンについては、[Identity Manager のマニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idm40/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/idm40/index.html) を参照してください。

## 追加のマニュアル

Identity Manager の追加マニュアルについては、[Identity Manager マニュアル Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idm40/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/idm40/index.html) を参照してください。

ユーザアプリケーションマニュアルについては、[Identity Manager マニュアル Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/idm40/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/idm40/index.html) を参照してください。



# 統合インストーラの概要

Identity Manager 4.0.1 は、データセンター環境からクラウド環境に至るまで、識別情報管理およびプロビジョニングのための世界有数のコンプライアンスサポートとコスト削減を実現します。管理者やコンサルタントは、統合インストーラを使用することにより Identity Manager 4.0.1 を簡単に展開できます。この単純化されたインストーラでは、各コンポーネントを個別にインストールする必要がないので、システムを素早く設定できます。

- ◆ 7 ページのセクション 1.1 「統合インストーラとスタンドアロンインストーラ」
- ◆ 8 ページのセクション 1.2 「ドライバの設定」
- ◆ 9 ページのセクション 1.3 「Identity Manager 4.0.1 Standard Edition と Advanced Edition のインストールにおける相違点」

## 1.1 統合インストーラとスタンドアロンインストーラ

表 1-1 統合インストーラとスタンドアロンインストーラの比較

機能	統合	スタンドアロン
ツリー構造	ツリー構造は、ほとんどの Identity Manager の展開に合うように定義されています。ツリー構造の詳細については、 <a href="#">16 ページのセクション 2.9 「識別ポールの構造」</a> を参照してください。	ツリー構造はカスタマイズ可能です。
ドライバのカスタムインストール	すべてのドライバがデフォルトでインストールされます。	ドライバのカスタムインストールがサポートされています。
ドライバセット	メタディレクトリサーバの環境設定中に別のパーティションとして作成されます。	作成されません。iManager を使用して手動で作成できます。
root 以外のインストール	サポートされていません。	一部のコンポーネントの root 以外のインストールがサポートされています。
iManager プラグインのインストール	自動的にインストールされます。	手動でインストールされます。
依存関係	依存関係を自動的に処理します。	依存関係は手動で処理されます。
インストールにかかる時間	いくつかの手動による手順を自動化し、システムを素早く設定します。	通常、より時間がかかります。

機能	統合	スタンドアロン
ユーザ入力オプション	ユーザインタフェースのオプションがより少ないため、ユーザ入力が少なく済みます。いくつかのオプションは、デフォルト値を想定しています。	ユーザインタフェースには、いくつかのオプションがあるので、すべてのコンポーネントをよく理解しておく必要があります。
サポートされているプラットフォームのチェック	内部的にプラットフォームの違いをチェックします。	プラットフォームのチェックを実行しません。
処理の不整合	コンポーネントとプラットフォーム間でユーザエクスペリエンスが一貫しています。	不整合が発生する可能性があります。
インストールと環境設定フェーズ	インストールと環境設定のフェーズが別々です。	さまざまなコンポーネント間で異なります。

1つ以上の Identity Manager コンポーネントを別にインストールしたり、多くのカスタマイズされたオプションが必要な場合は、『[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)』を参照しながらインストールします。インストール手順については、「[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)」の「[インストール](#)」セクションを参照してください。

統合インストーラは、主に Identity Manager 4.0.1 の新規インストールに使用します。既存のインストールのアップグレードに関する情報については、[41 ページの第 6 章「Identity Manager のアップグレード」](#)を参照してください。

現在のところ、統合インストーラは、GUI インストールとサイレントインストールという 2 種類のインストールモードをサポートしています。コンソールモードはサポートされていません。

## 1.2 ドライバの設定

統合インストーラを使用することで、次の Identity Manager 4.0.1 コンポーネントをインストールおよび環境設定することができます。

- ◆ メタディレクトリサーバ (識別ボールド、メタディレクトリエンジン、およびリモートローダ)
- ◆ Roles Based Provisioning Module
- ◆ Identity Reporting Module
- ◆ イベント監査サービス
- ◆ 役割マッピング管理者
- ◆ iManager
- ◆ Designer
- ◆ Analyzer

統合インストーラは、Roles Based Provisioning Module と the Identity Reporting Module に必要なドライバを設定します。追加のドライバを設定する場合は、[Identity Manager 4.0.1 ドライバのマニュアルの Web サイト \(<http://www.novell.com/documentation/idm401drivers/>\)](#)を参照してください。

## 1.3 Identity Manager 4.0.1 Standard Edition と Advanced Edition のインストールにおける相違点

Identity Manager 4.0.1 には、Advanced Edition および Standard Edition があります。それぞれに個別の ISO イメージが存在します。Advanced Edition と Standard Edition のインストールプログラムは、一部、次のように異なります。

**Standard Edition** には役割マッピング管理者が付属していません。役割マッピング管理者は、統合インストーラの [Select Components] ページの Identity Manager コンポーネントの一覧には含まれていません。

メッセージングゲートウェイドライバの設定はサポートされていません。Standard Edition では、統合インストーラを使用してメッセージングゲートウェイドライバを設定できません。

ユーザアプリケーション管理者の役割がさらに 2 つ追加されています。Standard Edition では、ユーザアプリケーション管理者に加えて、レポート管理者およびセキュリティ管理者の役割が追加されています。統合インストーラを使用してユーザアプリケーションを設定する際に、レポート管理者およびセキュリティ管理者の資格情報を指定する必要があります。

**Identity Reporting Module** に新しいレポートが追加されました。3 つの新しいレポートが Identity Reporting Module に追加されました。役割、リソース、およびワークフロープロセスなどのデータに関する報告を行うレポートの一部は、Standard Edition では使用できません。新しいレポートの詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 概要ガイド](#)』の「[Identity Manager 4.0.1 の新機能](#)」のセクションを参照してください。

Identity Manager のインストールの詳細については、[21 ページの第 4 章「Identity Manager のインストール」](#)を参照してください。

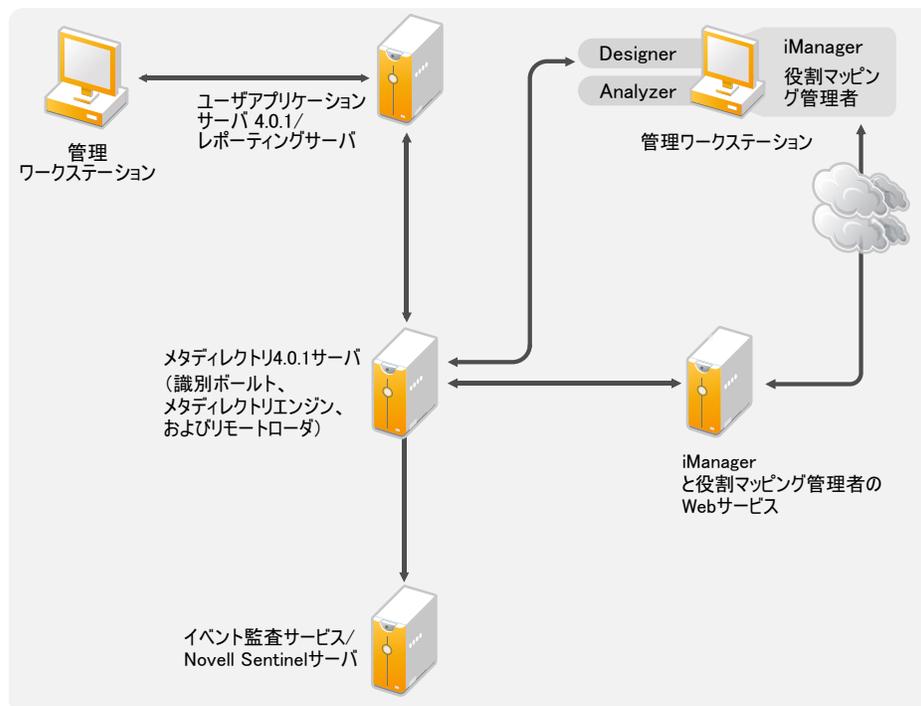


# Identity Manager のコンポーネント

# 2

Identity Manager の統合インストーラを使用することで、次のコンポーネントをインストールできます。Identity Manager コンポーネントは、同じシステム上にインストールする必要はありません。図 2-1 は、サポートされているプラットフォームおよびシステムを示しています。

図 2-1 Identity Manager の統合インストーラのコンポーネント



- ◆ 12 ページのセクション 2.1 「メタディレクトリサーバ (識別ポータル、メタディレクトリエンジン、およびリモートローダ)」
- ◆ 12 ページのセクション 2.2 「サポートされているプロセッサ」
- ◆ 12 ページのセクション 2.3 「サーバオペレーティングシステム」
- ◆ 13 ページのセクション 2.4 「監査とレポート」
- ◆ 14 ページのセクション 2.5 「ユーザアプリケーション」
- ◆ 14 ページのセクション 2.6 「役割マッピング管理者」
- ◆ 15 ページのセクション 2.7 「iManager、Designer、および Analyzer」
- ◆ 16 ページのセクション 2.8 「Web ブラウザ」
- ◆ 16 ページのセクション 2.9 「識別ポールの構造」

## 2.1 メタディレクトリサーバ ( 識別ポルト、メタディレクトリエンジン、およびリモートローダ )

メタディレクトリサーバは、リモートローダを使用して設定されているかどうかにかかわらず、ドライバからのイベントを処理します。

Identity Manager をインストールする際、識別ポルトが自動的にインストールされます。

## 2.2 サポートされているプロセッサ

ここにリストされているプロセッサは、Identity Manager のテスト中に使用されます。

Linux (SUSE Linux Enterprise Server) および Windows オペレーティングシステムでは次の 32 ビットプロセッサがサポートされています。

- Intel x86-32
- AMD x86-32

Linux (SUSE Linux Enterprise Server) および Windows オペレーティングシステムでは次の 64 ビットプロセッサがサポートされています。

- Intel EM64T
- AMD Athlon64
- AMD Opteron

SPARC プロセッサは Solaris のテストに使用されます。

## 2.3 サーバオペレーティングシステム

メタディレクトリエンジンは、32 ビットオペレーティングシステムに 32 ビットアプリケーションとしてインストールすることも、64 ビットオペレーティングシステムに 64 ビットアプリケーションとしてインストールすることもできます。表 2-1 は、メタディレクトリサーバが動作可能な、サポートされているサーバオペレーティングシステムのリストを示しています。

表 2-1 サポートされているサーバオペレーティングシステム

サーバオペレーティングシステムのバージョン	注
Windows Server 2003 SP2 (32 ビット)	メタディレクトリサーバは 32 ビットモードでのみ実行されます。
Windows Server 2008 R2 (64 ビット)	メタディレクトリサーバは 64 ビットモードでのみ実行されます。
Windows Server 2008 以降のサポートパック (32 ビットおよび 64 ビット)	メタディレクトリサーバは 32 ビットモードまたは 64 ビットモードのいずれかで実行します。

サーバオペレーティングシステムのバージョン	注
SUSE Linux Enterprise Server 10 SP3 (32 ビットおよび 64 ビット)	メタディレクトリサーバは 32 ビットモードまたは 64 ビットモードのいずれかで実行します。Novell では、Identity Manager をインストールする前に、製造元の自動更新機能を使用して最新の OS パッチを適用することをお勧めします。
SUSE Linux Enterprise Server 11 (32 ビットおよび 64 ビット)	メタディレクトリサーバは 32 ビットモードまたは 64 ビットモードのいずれかで実行します。Novell では、Identity Manager をインストールする前に、製造元の自動更新機能を使用して最新の OS パッチを適用することをお勧めします。
SUSE Linux Enterprise Server 11 SP1 (32 ビットおよび 64 ビット)	メタディレクトリサーバは 32 ビットモードまたは 64 ビットモードのいずれかで実行します。Novell では、Identity Manager をインストールする前に、製造元の自動更新機能を使用して最新の OS パッチを適用することをお勧めします。
Solaris 10 (64 ビット)	メタディレクトリサーバは 64 ビットモードでのみ実行されます。

表 2-2 サポートされている仮想化オペレーティングシステム

サーバオペレーティングシステムのバージョン	注
Xen	Xen は、Xen 仮想マシンで SLES 10/11 がゲストオペレーティングシステムとして並行仮想化モードで実行されている場合にサポートされます。
Hyper-V を使用した Windows Server 2008 R2 仮想化	メタディレクトリサーバは 32 ビットモードまたは 64 ビットモードのいずれかで実行します。
VMware ESX	メタディレクトリサーバは 32 ビットモードまたは 64 ビットモードのいずれかで実行します。

注：Open Enterprise Server 2 は Identity Manager の統合インストーラではサポートされていません。

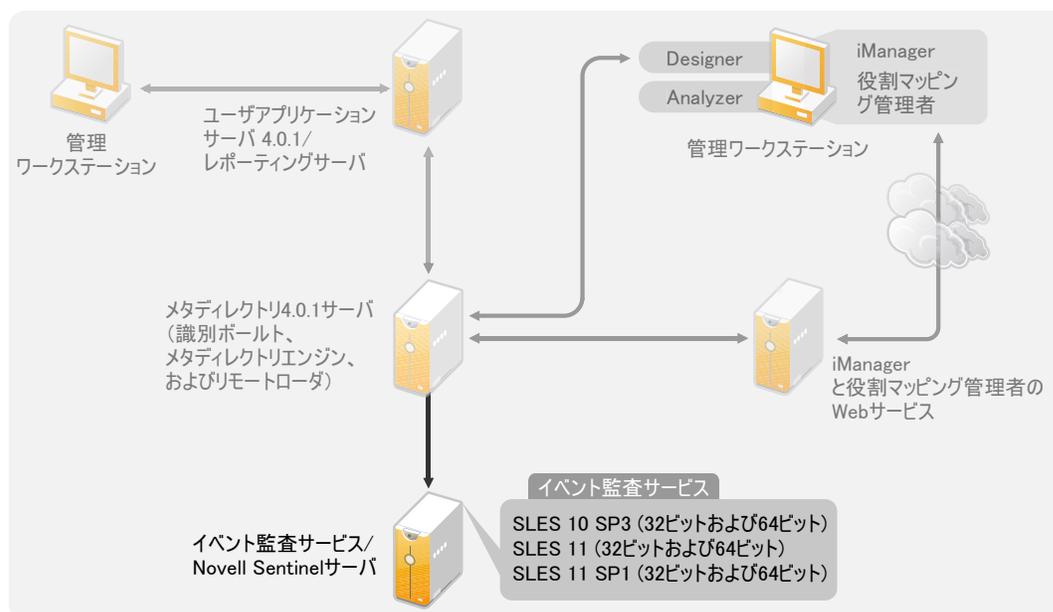
## 2.4 監査とレポート

監査とレポートを追加すると、多くの会社が遵守する必要があるコンプライアンス基準を満たすことができます。追跡する必要のあるイベントの監査記録を作成でき、会社の監査基準を満たすレポートを生成できます。

Identity Manager に関する監査とレポートの情報を収集するには、Identity Reporting Module と Novell Sentinel の 2 つのツールを使用します。

Identity Reporting Module は、Identity Manager 4.0.1 のコンポーネントです。Novell Sentinel は Identity Manager にバンドルされていませんが、Identity Manager システムに追加できるオプションコンポーネントです。

図 2-2 監査とレポート



Identity Reporting Module のシステム要件の詳細については、『[Identity Reporting Module Guide](#)』の「[System Requirements](#)」セクションを参照してください。Sentinel と Identity Manager の設定情報については、『[Novell Sentinel 用 Identity Manager 4.0.1 レポートガイド](#)』を参照してください。Novell Sentinel のシステム要件については、『[Novell Sentinel Installation Guide \(http://www.novell.com/documentation/sentinel6/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/sentinel6/index.html)』を参照してください。

## 2.5 ユーザアプリケーション

Identity Manager ユーザアプリケーションでは、Identity Manager の情報、役割、リソース、および機能にアクセスできます。システム管理者が Identity Manager ユーザアプリケーションで表示する内容および実行できる操作を決定します。

Roles Based Provisioning Module 4.0.1 は、JBoss 5.1 をアプリケーションサーバ、PostgreSQL 8.4.3 をデータベースとして使用します。

ユーザアプリケーションのシステム要件の一覧については、『[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0.1 User Application: Installation Guide](#)』の「[System Requirements](#)」セクションを参照してください。

## 2.6 役割マッピング管理者

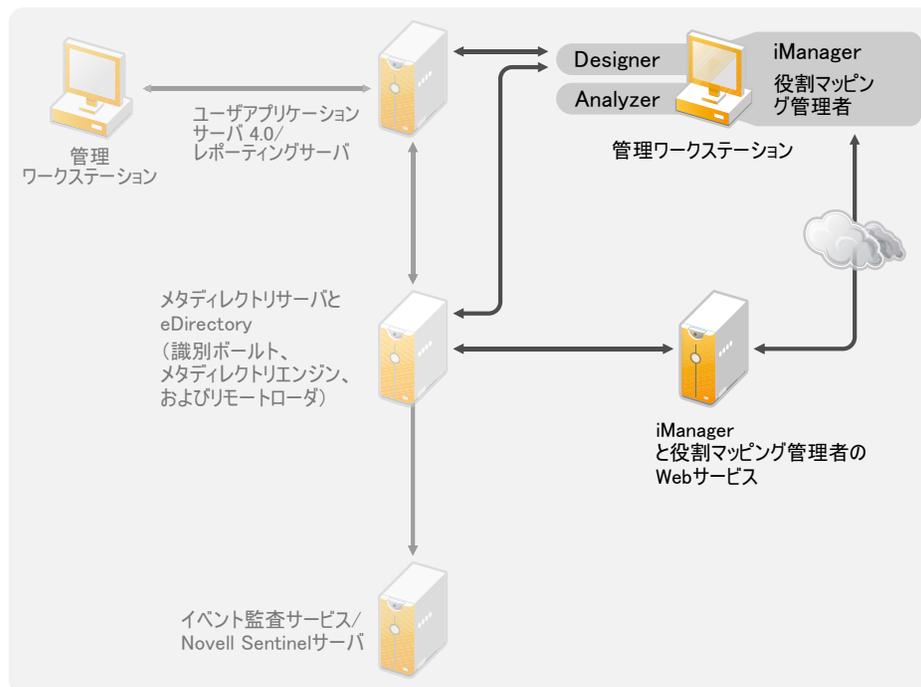
Novell Identity Manager の役割マッピング管理者は、管理対象システムの役割、複合役割、およびプロファイル (総称して権限と呼ばれる) を Identity Manager の役割にマップできます。ユーザに Identity Manager Roles Based Provisioning Module を使用して役割が割り当

てられると、そのロールにマップされているすべての権限が与えられます。役割マッピング管理者のシステム要件の一覧については、『*Novell Identity Manager Role Mapping Administrator 4.0.1 User Guide*』の「System Requirements」セクションを参照してください。

## 2.7 iManager、Designer、および Analyzer

iManager、Designer、Analyzer、役割マッピング管理者をインストールするには、インストールの「Select Components (コンポーネントの選択)」ページで、対応するチェックボックスを使用して個別に選択します。図 2-3 は、これらのコンポーネントを示しています。

図 2-3 Identity Manager 用のツール



システム要件については、個々のコンポーネントのマニュアルを参照してください。

- ◆ iManager: 『*Novell iManager 2.7 Installation Guide*』の「Installing iManager ([http://www.novell.com/documentation/imanager27/imanager\\_install\\_274/data/alw39eb.html](http://www.novell.com/documentation/imanager27/imanager_install_274/data/alw39eb.html))」を参照してください。
- ◆ Designer: 『*Designer 4.0.1 for Identity Manager 4.0.1 Administration Guide*』の「System Requirements」セクションを参照してください。
- ◆ Analyzer: 『*Analyzer 4.0.1 for Identity Manager Administration Guide*』の「Installing Analyzer」セクションを参照してください。
- ◆ 役割マッピング管理者: 『*Identity Manager Role Mapping Administrator 4.0.1 Installation and Configuration Guide*』の「System Requirements」セクションを参照してください。

## 2.8 Web ブラウザ

Identity Manager を管理する場合にサポートされている Web ブラウザは次のとおりです。

- ◆ Internet Explorer 6 SP2
- ◆ Internet Explorer 7 および 8
- ◆ Firefox 3, 3.5.x、および 3.6.x

## 2.9 識別ボールドの構造

識別ボールドの構造は、ほとんどの Identity Manager の展開に合うように定義されています。

図 2-4 識別ボールドの構造

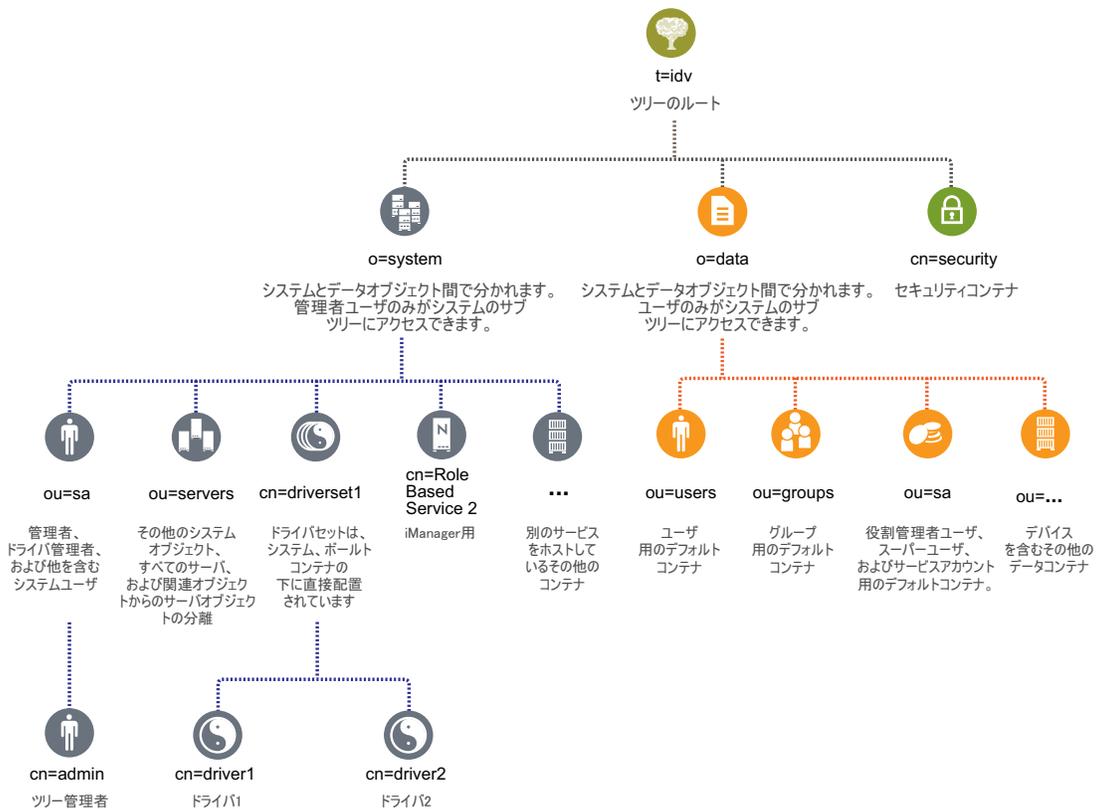


図 2-4 は、Identity Manager の識別ボールドの構造を表しています。この構造は主に、単一環境でのインストール向けに便利です。これは、小中規模の Identity Manager の展開ではデフォルトの構造です。マルチテナント環境では、構造がわずかに異なる可能性があります。また、この方法では、大規模なツリーや分散型のツリーを整理できません。このタイプのツリー構造は、統合インストーラを使用して新しいツリーを作成する際に作成されません。

Identity Manager 4.0.1 では、主に組織コンテナを使用するので、ユーザ、グループ、およびサービスの管理者は同じコンテナ内に配置されます。可能な限り組織を使用し、状況に適うのであれば組織単位を使用してください。Identity Manager 4.0.1 構造は、次の3つの主要コンポーネントを使用することで拡張性を持つように設定されています。

- ◆ 17 ページのセクション 2.9.1 「セキュリティ」
- ◆ 17 ページのセクション 2.9.2 「データ」
- ◆ 17 ページのセクション 2.9.3 「システム」

## 2.9.1 セキュリティ

セキュリティコンテナとは、識別ボールドのインストール時に作成される特殊なコンテナです。これは、dc, o, または ou の代わりに cn=security と指定されます。このコンテナは、識別ボールドのすべてのセキュリティオブジェクトを保持します。たとえば、認証局やパスワードのポリシーが含まれています。

## 2.9.2 データ

データコンテナは、グループ、ユーザ、役割管理者、デバイス、およびその他を保持します。このデータによってシステムが構成されます。グループ、ユーザ、およびサービス管理者 (sa) コンテナは組織単位です。お客様の組織上の慣習に応じて、追加の組織単位を使用してデータを構造化できます。

### ou=sa

サービス管理者 (ou=sa) コンテナは、ユーザアプリケーション管理者のオブジェクトとサービス管理者アカウントをすべて保持しています。

## 2.9.3 システム

システムコンテナは、1つの組織です。これは、o=system と指定されます。このコンテナは、識別ボールドおよび Identity Manager システム用の技術情報および環境設定情報のすべてを保持しています。システムコンテナは、主に次の4つのサブコンテナを保持しています。

- ◆ サービス管理者またはサービス管理者ユーザ / スーパーユーザ / サービスアカウント
- ◆ サーバ
- ◆ ドライバセット
- ◆ サービス

### ou=sa

サービス管理者コンテナは、識別ボールドとドライバの管理オブジェクトを保持します。管理者ユーザのみがシステムのサブツリーにアクセスできます。識別ボールドのデフォルト管理者は admin.sa.system です。

## サーバ

サーバオブジェクトには、関連するさまざまなオブジェクトが存在し、それらのオブジェクトはサーバオブジェクトと同じコンテナ内に存在する必要があります。ツリーに追加されるサーバの数が増えると、それらのオブジェクトをすべてスクロールするのが非常に煩雑になる場合があります。

サーバオブジェクトはすべて `servers.system` コンテナの下に含める必要があります。ただし管理者は、環境内で展開されたサーバごとに個別のサーバコンテナを作成することができます。コンテナの名前は、サーバオブジェクトの名前になります。サーバに関連付けられているすべてのオブジェクト (ボリューム、ライセンス、証明書) が同じ場所に収まり、必要なオブジェクトを容易に検索できるようになります。

この構造は、スケーラビリティを念頭に置いて設計されており、10 サーバまたは 100 サーバに拡張しても、単一のサーバに関連付けられたオブジェクトを容易に見つけることができます。

## ドライバセット

ドライバセットは、メタディレクトリサーバの環境設定中に別のパーティションとして作成されます。すべてのドライバセットオブジェクトは、システムコンテナに格納されています。Identity Manager 4.0.1 システムでは、複数のドライバセットを使用できます。この構造は、システムコンテナにさらにドライバセットを追加してスケールアップすることを可能にします。iManager の役割ベースのサービスもシステムコンテナに格納されています。

# システム要件

# 3

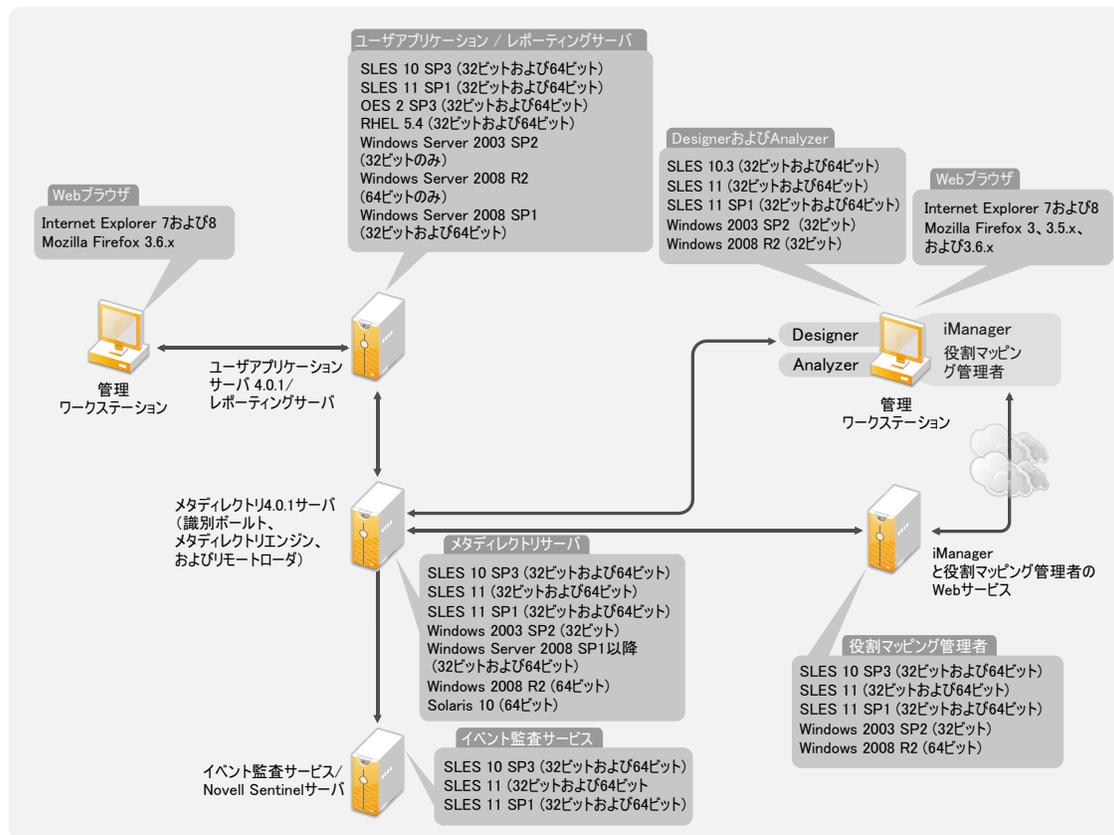
Novell Identity Manager コンポーネントは、統合インストーラを使用して複数のシステムおよびプラットフォームにインストールすることができます。

- 19 ページのセクション 3.1 「サポートされているプラットフォーム」
- 20 ページのセクション 3.2 「リソースの要件」

## 3.1 サポートされているプラットフォーム

図 3-1 は、Novell Identity Manager 4.0.1 の統合インストーラでサポートされているプラットフォームを示しています。

図 3-1 Identity Manager 統合インストーラのシステム要件



- Identity Manager 4.0.1 では、イベント監査サービスがサポートされるのは、SLES プラットフォームのみです。Windows および RHEL では、イベント監査サービスはサポートされていません。イベント監査サービスサーバはリモートマシンにインストールされます。インストーラによって、Identity Reporting の設定に関する追加フィールドが表示されます。このフィールドでは、イベント監査サービスのシステムパスワードをサーバ用に指定できます。イベント監査サービスがインストールしてあるマシン

の `/etc/opt/novell/sentinel_eas/config/activemqusers.properties` ファイルからシステムパスワードをコピーし、イベント監査サービスのシステムパスワードフィールドに貼り付けます。

- ◆ Identity Manager 4.0.1 では、メタディレクトリサーバのみが **Solaris** でサポートされています。
- ◆ すべての Identity Manager コンポーネントをすべてのプラットフォームにインストールできるわけではありません。たとえば、メタディレクトリサーバは **Solaris** でのみサポートされており、イベント監査サービスは **SLES** プラットフォームでのみサポートされています。

## 3.2 リソースの要件

上記のプラットフォームの要件に加えて、すべての Identity Manager コンポーネントをインストールおよび設定するためには、以下のリソース要件を満たしていることを確認します。

- ◆ 3072MB 以上の RAM
- ◆ すべてのコンポーネントをインストールするための 10GB の空きディスク容量。
- ◆ データの設定および入力用の追加のディスク容量。これは、接続システムおよび識別ポールのオブジェクトの数に応じて異なる可能性があります。
- ◆ 可能であれば 2GHz のプロセッサを搭載したマルチ CPU サーバ。

---

**注：**これらの仕様は、導入環境に応じて異なる場合があります。

---

# Identity Manager のインストール

# 4

統合インストーラを使用すると、すべてのコンポーネントを同時にインストールおよび設定したり、別々の実行でそれらの作業を行ったりできます。各コンポーネントを個別にインストールするには、異なるコンポーネントごとに別々のインストーラを持つ Identity Manager Framework のインストーラを使用して、「[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)」の「[Identity Manager のインストール](#)」のセクションに記載されている順序でコンポーネントをインストールします。さまざまなコンポーネントの説明については、『[Identity Manager 4.0.1 概要ガイド](#)』を参照してください。

Identity Manager の統合インストーラがインストールするさまざまなコンポーネントのリストについては、[7 ページの第 1 章「統合インストーラの概要」](#)を参照してください。各コンポーネントの詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 概要ガイド](#)』を参照してください。

インストールインタフェースに関しては説明をほとんど要しないため、段階的なインストール手順について以下のセクションでは説明しません。ただし、ヘルプが必要だと考えられるようなプロセスに含まれる重要な手順に関する情報は、以下のセクションで提供されます。

- ◆ [21 ページのセクション 4.1 「ISO ファイルのダウンロード」](#)
- ◆ [23 ページのセクション 4.2 「物理メディアまたは ISO イメージを使用した新規インストール」](#)
- ◆ [34 ページのセクション 4.3 「インストール後の処理」](#)
- ◆ [35 ページのセクション 4.4 「サイレントインストールと環境設定」](#)

既存の Identity Manager のインストールのアップグレードについては、[41 ページの第 6 章「Identity Manager のアップグレード」](#)を参照してください。

## 4.1 ISO ファイルのダウンロード

Identity Manager 4.0.1 には、Advanced Edition および Standard Edition があります。それぞれに個別の ISO イメージが存在します。Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition には、エンタープライズクラスのユーザプロビジョニング向けの機能一式が含まれます。Identity Manager Standard Edition には、お客様のさまざまな要件を満たすために、Identity Manager Advanced Edition で利用できる機能のサブセットが含まれています。Standard Edition では、Identity Manager の以前のバージョンに存在したすべての機能がそのまま提供されます。Identity Manager 4.0.1 Advanced Edition および Identity Manager Standard Edition の詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 概要ガイド](#)』の「[Identity Manager 4.0.1 の機能](#)」を参照してください。

ビジネス要件を最も満たすエディションを購入できます。または、Identity Manager の評価版をダウンロードし、90 日間無料で使用できます。ただし、Identity Manager コンポーネントは、インストール後 90 日以内にアクティベートしないと、シャットダウンされます。90 日間またはそれ以降、いつでも製品ライセンスの購入と Identity Manager のアクティベーションを選択することも可能です。詳細については、[37 ページの第 5 章「Novell Identity Manager 製品を有効にする」](#)を参照してください。

## Identity Manager とそのサービスをダウンロードする

- 1 Novell のダウンロード Web サイト (<http://download.novell.com>) にアクセスします。
- 2 [製品または技術] メニューで、[Novell Identity Manager] を選択し、[検索] をクリックします。
- 3 Novell Identity Manager のダウンロードページで、目的のファイルの横にある [ダウンロード] ボタンをクリックします。表 4-1 には各ファイルの説明が含まれています。
- 4 要件に基づいて、適切な ISO イメージを選択できます。各 ISO には、32 ビット版と 64 ビット版の製品が含まれています。
- 5 画面の指示に従って、ファイルをコンピュータ上のディレクトリにダウンロードします。
- 6 必要なすべてのファイルをダウンロードするまで、ステップ 3 以降を繰り返します。
- 7 ダウンロードされた .iso ファイルをボリュームとしてマウントするか、.iso ファイルを使用してソフトウェアの DVD を作成します。作成したメディアの有効性をまだ確認していない場合は、[Media Check (メディアチェック)] オプションを使用してそれを確認できます。

---

注: Linux の ISO ファイルは、ISO ファイルのサイズが大きいため、片面 2 層の DVD にコピーする必要があります。

---

表 4-1 Identity Manager の ISO イメージ

ISO	プラットフォーム	説明
Identity_Manager_4.0.1_Linux_Advanced.iso	Linux	メタディレクトリサーバ、イベント監査サービス、Designer、iManager、役割マッピング管理者、Analyzer、Identity Reporting Module、および Roles Based Provisioning Module の DVD イメージを含みます。
Identity_Manager_4.0.1_Linux_Standard.iso	Linux	メタディレクトリサーバ、イベント監査サービス、Designer、iManager、Analyzer、Identity Reporting Module、および Roles Based Provisioning Module の DVD イメージを含みます。
Identity_Manager_4.0.1_Windows_Advanced.iso	Windows	メタディレクトリサーバ、Designer、iManager、役割マッピング管理者、Analyzer、Identity Reporting Module、および Roles Based Provisioning Module の DVD イメージを含みます。
Identity_Manager_4.0.1_Windows_Standard.iso	Windows	メタディレクトリサーバ、Designer、iManager、Analyzer、Identity Reporting Module、および Roles Based Provisioning Module の DVD イメージを含みます。
Identity_Manager_4.0.1_Solaris_Advanced.iso	Solaris	メタディレクトリサーバの DVD イメージを含みます。その他のコンポーネントは、Solaris プラットフォームではサポートされていません。

ISO	プラットフォーム	説明
Identity_Manager_4.0.1_Solaris_Standard.iso	Solaris	メタディレクトリサーバの DVD イメージを含みます。その他のコンポーネントは、Solaris プラットフォームではサポートされていません。

**重要 :** Identity Manager Advanced Edition から Standard Edition に移行するには、Advanced Edition をアンインストールしてから、Standard Edition をインストールします。Standard Edition から Advanced Edition にアップグレードするには、Identity Manager Advanced Edition の ISO イメージを使用します。Advanced Edition にアップグレードするには、正しいアクティベーションを適用する必要があります。Standard Edition から Advanced Edition へのアップグレードに関する詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Upgrade and Migration Guide](#)』を参照してください。

## 4.2 物理メディアまたは ISO イメージを使用した新規インストール

統合インストーラは、Identity Manager コンポーネントのバイナリファイルをインストールしたり、コンポーネントを設定したりするのに役立ちます。

- ◆ [23 ページのセクション 4.2.1 「インストール」](#)
- ◆ [24 ページのセクション 4.2.2 「環境設定」](#)

**重要 :** 統合インストーラを使用して 64 ビットシステムにインストールする場合、インストールを開始する前に libgthread-2\_0-0-32bit-2.17.2+2.17.3+20080708+r7171-3.1.x86\_64.rpm 互換ライブラリがインストールされていることを確認します。

### 4.2.1 インストール

- 1 .iso ファイルをマウントするか、.iso ファイルから作成した DVD にアクセスして、Identity Manager 4.0.1 のインストールファイルにアクセスします。

詳細については、[21 ページのセクション 4.1 「ISO ファイルのダウンロード」](#)を参照してください。

- 2 マウントディレクトリに移動し、ご利用のプラットフォーム用の正しいプログラムを使用してインストールを開始します。

**Linux または Solaris:** ./install.bin

バイナリファイルを実行するために、「./install.bin」と入力します。

**Windows:** install.exe

- 3 次の情報を使用して、インストールを完了します。

**はじめに :** インストール時に使用する言語を選択し、インストール可能なコンポーネントを確認します。

**使用許諾契約 :** 使用許諾契約書の条項を確認し、同意します。

**コンポーネントの選択:** インストールするコンポーネントを選択します。オプションは次のとおりです。

- ◆ メタディレクトリサーバ
- ◆ Roles Based Provisioning Module
- ◆ Identity Reporting Module
- ◆ イベント監査サービス
- ◆ 役割マッピング管理者
- ◆ iManager
- ◆ Designer
- ◆ Analyzer

---

**注:** Roles Based Provisioning Module および Identity Reporting Module は、識別ボールドのないシステムにインストールできます。Roles Based Provisioning Module および Identity Reporting Module は、常に同じシステムにインストールする必要があります。Roles Based Provisioning Module では、アプリケーションサーバとデータベースとして JBoss と PostgreSQL が使用されます。

---

**インストールフォルダの選択:** Identity Manager およびすべてのコンポーネントがインストールされる基本フォルダを指定します。このオプションは、Windows にのみ適用されます。

Linux/UNIX のインストールには、事前定義されたインストールパスがあります。統合インストーラは、次の事前定義されたインストールパスにコンポーネントをインストールします。

- ◆ eDirectory および Identity Manager: /opt/novell/eDirectory
- ◆ Roles Based Provisioning Module、Reporting Module、役割マッピング管理者、Designer、および Analyzer: /opt/novell/idm
- ◆ イベント監査サービス: /opt/novell/sentinel\_eas

**インストール前の概要:** 選択されたコンポーネントに関する情報を含む [Pre-Installation summary (インストール前の概要)] ページを確認します。これらの設定のいずれかを変更するには、[前へ] をクリックします。

**インストール完了の概要:** インストール後の概要を参照し、選択したコンポーネントのインストールステータスおよび各コンポーネントのログファイルの場所を確認します。ログファイルの場所に関する情報については、35 ページの表 4-2 を参照してください。

**環境設定の続行:** (オプション) 選択されたコンポーネントが設定可能な場合のみ、このチェックボックスが有効になります。環境設定を続行する場合、24 ページのセクション 4.2.2 「環境設定」に進みます。環境設定を続行しない場合、このチェックボックスをオフにします。

## 4.2.2 環境設定

統合インストーラを使用して、すでにインストールされている Identity Manager コンポーネントを設定できます。環境設定を続行する前に、23 ページのセクション 4.2.1 「インストール」を完了したか確認します。

---

**重要:** 新しいツリーを作成するか、既存のツリーに追加する際に、`/etc/hosts` ファイルに 127.0.0.2 のエントリが含まれる場合は、デフォルトの IP 証明書が 127.0.0.2 のループバックアドレスに対して作成されるので設定が失敗します。設定を正常に行うには、127.0.0.2 のループバックアドレスをコメントアウトし、127.0.0.1 のループバックアドレスと実際の IP アドレスがファイルに含まれることを確認します。

---

Identity Manager コンポーネントを設定するには

- 1 インストール手順の [23 ページのステップ 3](#) から続行した場合、[ステップ 2](#) にスキップしてください。それ以外の場合は、ご利用のプラットフォームに適したプログラムを使用して環境設定を開始します。

**Linux:** `./configure.bin`

**Solaris:** `./configure.bin`

バイナリファイルを実行するために、「`./configure.bin.`」と入力します。

**Windows:** `configure.exe`

- 2 設定するコンポーネントを選択し、[\[次へ\]](#) をクリックします。
- 3 次のいずれかのオプションを選択し、Identity Manager コンポーネントの環境設定を完了します。
  - ◆ [26 ページの「新しいツリーを作成する」](#)
  - ◆ [30 ページの「既存のツリーへの追加」](#)

---

**注:** ◆既存のツリーに追加する場合、プライマリサーバに Identity Manager 3.6 以降がインストールされている場合は、プライマリサーバで `NrfCaseUpdate` ユーティリティを実行し、役割とリソースに対する大文字と小文字が混在する検索をサポートするようにします。

`NrfCaseUpdate` ユーティリティを実行しないと、メタディレクトリサーバの設定が失敗します。`NrfCaseUpdate` ユーティリティの実行に関する詳細については、「[Identity Manager Roles Based Provisioning Module 4.0.1 User Application: Installation Guide](#)」の「[NrfCaseUpdate ユーティリティの実行](#)」を参照してください。

- ◆統合インストーラは、セカンダリサーバの追加前にヘルスチェックを実行しません。統合インストーラを使用してセカンダリサーバを追加する前に `ndsccheck` を実行する必要があります。Windows で、`<install location>\NDS` の場所から `ndsccheck` を実行します。Linux/Solaris では、それを `/opt/novell/eDirectory/bin/ndsccheck` ディレクトリから実行します。必須パラメータを指定し、次のようにコマンドを実行します。

```
ndsccheck [-h <hostname port>] [-a <admin FDN>] [[-w <password>]
```

- ◆Roles Based Provisioning ModuleまたはIdentity Reporting Moduleのいずれかが統合インストーラを使用して設定されると、Windows および Linux の両プラットフォーム上でログサーバの詳細を使用して `logevent.cfg` ファイルが変更されます。メタディレクトリサーバのみを設定する場合は、`logevent.cfg` ファイルにログサーバの詳細を手動で追加します。
-

## 新しいツリーを作成する

表示されるフィールドは、前ページで設定対象に選択したコンポーネントに依存します。

- 1 新しいツリーを作成するように選択した場合、次の情報を使用して Identity Manager のコンポーネントを設定します。
  - ◆ 26 ページの「識別ボールド」
  - ◆ 26 ページの「識別ボールド > 詳細」
  - ◆ 27 ページの「Roles Based Provisioning Module (RBPM)」
  - ◆ 28 ページの「Roles Based Provisioning Module (RBPM) > 詳細」
  - ◆ 28 ページの「Identity Reporting Module」
  - ◆ 29 ページの「Identity Reporting Module > 詳細」
  - ◆ 30 ページの「イベント監査サービス」
  - ◆ 30 ページの「イベント監査サービス > 詳細」
  - ◆ 30 ページの「iManager > 詳細」
- 2 事前設定の概要を確認し、*[Configure (環境設定)]* をクリックします。
- 3 環境設定の概要ページを確認し、*[Done (完了)]* をクリックします。

環境設定中に問題が発生した場合、環境設定ログを確認します。詳細については、35 ページの「ログファイルとプロパティファイルの場所」を参照してください。

### 識別ボールド

次のフィールドに入力し、新しいツリーを作成します。

**新しいツリー名** : 新規ツリーの名前を指定します。

**Admin パスワード** : 識別ボールドの管理者用のパスワードを指定します。

**管理者パスワードの確認** : 識別ボールドの管理者用のパスワードを再入力します。

### 識別ボールド > 詳細

インストールする機能をカスタマイズするには、*[詳細]* を選択します。次のフィールドに入力し、ツリーをカスタマイズします。

**管理者名** : 識別ボールドの管理者ユーザの名前を指定します。

**NCP ポート** : NCP ポートは、デフォルト値である 524 のままにするか値を変更します。NCP は、eDirectory のコア通信プロトコルです。

**LDAP ポート** : LDAP ポートは、デフォルト値である 389 のままにするか値を変更します。

**LDAP セキュアポート** : LDAP セキュアポートは、デフォルト値である 636 のままにするか値を変更します。

**HTTP ポート** : HTTP ポートは、デフォルト値である 8028 のままにするか値を変更します。

**HTTP セキュアポート** : HTTP セキュアポートは、デフォルト値である 8030 のままにするか値を変更します。

**インスタンスパス :** サーバが Linux/UNIX の場合、1 つのサーバ上で eDirectory の複数インスタンスを実行できます。サーバ上のこの eDirectory インスタンスのパスを指定します。デフォルトのパスは /var/opt/novell/eDirectory です。

**DIB パス :** eDirectory データベース (DIB) のパスを指定します。DIB のデフォルトの場所は次のとおりです。

- ◆ **Linux/UNIX:** /var/opt/novell/eDirectory/data/dib
- ◆ **Windows:** c:\Novell\IdentityManager\NDS\DIBFiles\

---

**注 :** DIB ファイルは、常に \NDS フォルダ内に存在する必要があります。Windows における DIB のデフォルトの場所を、たとえば \NDS\DIBFiles\ のように変更すると、メタディレクトリサーバの環境設定が失敗します。

---

**パスワードとの単純バインドに TLS を必要とする :** すべての LDAP 接続をセキュアポート (デフォルトは 636) で要求するには、このオプションを選択します。このオプションの選択を解除すると、平文ポート (デフォルトは 389) 上で LDAP サーバへの認証を行うユーザが平文で自分のパスワードを渡します。詳細については、『[Novell eDirectory 8.8 インストールガイド \(http://www.novell.com/documentation/edir88/edirin88/data/a2iii88.html\)](http://www.novell.com/documentation/edir88/edirin88/data/a2iii88.html)』の「[LDAP を使用した eDirectory との通信 \(http://www.novell.com/documentation/edir88/edirin88/data/a7f08y1.html\)](http://www.novell.com/documentation/edir88/edirin88/data/a7f08y1.html)」を参照してください。

## Roles Based Provisioning Module (RBPM)

次のフィールドに記入し、Identity Reporting Module の一部である RBPM および Event Auditing Service (EAS) を設定します。

**EAS サーバアドレス :** EAS をホストするサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。このサーバを使用するか、別のサーバを追加できます。Identity Reporting Module は 1 つの EAS サーバ上でのみ設定できます。

**idmadmin DB のユーザパスワード :** データベースユーザのパスワードを指定します。このデータベースはレポート用の情報を保存します。

**idmadmin DB ユーザのパスワードの確認 :** データベースユーザのパスワードを再入力します。

**ユーザアプリケーションのパスワード :** ユーザアプリケーションのパスワードを指定します。

**ユーザアプリケーションのパスワードの確認 :** ユーザアプリケーションのパスワードを再入力します。

**(オプション) セキュリティ管理者のパスワード :** セキュリティ管理者のパスワードを入力します。

このフィールドは、Identity Manager SE でのみ必要です。

**(オプション) セキュリティ管理者のパスワードの確認 :** セキュリティ管理者のパスワードを再入力します。

このフィールドは、Identity Manager SE でのみ必要です。

**(オプション) レポート管理者のパスワード :** Identity Reporting の管理者のパスワードを入力します。

このフィールドは、Identity Manager SE でのみ必要です。

(オプション) レポート管理者のパスワードの確認: レポート管理者のパスワードを再入力します。

このフィールドは、Identity Manager SE でのみ必要です。

### Roles Based Provisioning Module (RBPM)> 詳細

RBPM の環境設定をカスタマイズするには、[詳細] を選択します。

**ユーザアプリケーションのアドレス:** ユーザアプリケーションをホストするサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。

**ユーザアプリケーションのユーザ:** ユーザアプリケーションの管理者ユーザの名前を指定します。

**ユーザアプリケーション管理者名:** ユーザアプリケーション管理者の名前を指定します。ユーザアプリケーション管理者は、Identity Manager ユーザアプリケーションのあらゆる管理機能を実施する権限があります。これらの機能には Identity Manager のユーザインタフェースの [Administration] タブにアクセスし、そこでサポートされるすべての管理アクションを実行することなどが含まれます。

(オプション) **セキュリティ管理者の名前:** ユーザアプリケーションのセキュリティ管理者の名前を入力します。この役割により、メンバーはセキュリティドメイン内のすべての機能を付与されます。セキュリティ管理者は、セキュリティドメイン内のすべてのオブジェクトで利用可能なあらゆるアクションを実行できます。

このフィールドは、Identity Manager Standard Edition でのみ必要です。

(オプション) **レポーティング管理者名:** レポーティング管理者の名前を入力します。このユーザにはセキュリティドメイン内のすべての機能が付与されています。レポーティング管理者は、レポーティングドメイン内のすべてのオブジェクトであらゆるアクションを実行できます。

このフィールドは、Identity Manager Standard Edition でのみ必要です。

### Identity Reporting Module

次のフィールドに入力し、Identity Reporting Module を設定します。

**idmrptsrv ユーザのパスワード:** idmrptsrv ユーザのパスワードを指定します。idmrptsrv ユーザは、データベーススキーマとレポーティング用のオブジェクトの所有者です。

**idmrptuser のパスワード:** idmrptuser のパスワードを指定します。これは、レポーティングデータに対して読み込み専用のアクセス権を持つユーザです。

**dbauser パスワード:** dbauser(データベース管理者) のパスワードを指定します。

**Managed System Gateway のポート:** Managed System Gateway ドライバが通信に使用するポートを指定します。

このフィールドは、Identity Manager AE でのみ必要です。

**データ収集サービスアドレス:** データ収集サービスサーバの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。

## Identity Reporting Module> 詳細

Identity Reporting Module の環境設定をカスタマイズするには、[\[詳細\]](#) をクリックします。次のフィールドに入力し、Identity Reporting Module をカスタマイズします。

**サブコンテナ検索の有効化:** Identity Reporting Module がレポート向けの情報を収集するためにサブコンテナ検索を実行できるようにするには、このオプションを選択します。

**アプリケーションサーバプラットフォーム:** Roles Based Provisioning Module とともに使用しているアプリケーションサーバの種類を指定します。サポートされるプラットフォームは、JBoss、WebSphere、および WebLogic です。

**データベースのホストアドレス:** データベースを実行しているサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。

**PostgreSQL JDBC ドライバのファイル名:** PostgreSQL JDBC ドライバのファイル名に postgresql-8.4-701.jdbc4.jar と指定します。

**PostgreSQL JDBC ドライバの場所:** PostgreSQL JDBC ドライバの .jar ファイルの場所を指定します。デフォルトの場所は、次のとおりです。

- ◆ **Linux/UNIX:** /opt/novell/sentinel\_eas/lib/
- ◆ **Windows:** c:\Novell\idm\sentinel\_eas\lib

**セキュア LDAP:** サーバがセキュア LDAP 接続を使用して通信するかどうかを選択します。

**LDAP ポート:** 通信用にセキュリティで保護された LDAP を選択した場合は、LDAP セキュアポートを指定します。それ以外の場合は、クリアテキストポートを指定します。

**トークンの有効期限の値(分):** 認証用にトークンを保持する分数を指定します。

**レポート単位:** *[Day(日)]*、*[Week(週)]*、または *[Month(月)]* を選択します。

**レポートの保持期間の値:** レポートが保持される期間を指定します。レポート単位が *[日]* に設定され、レポートの保持期間の値が「1」に設定されている場合、レポートは 1 日間保持されてから削除されます。

**サブコンテナのログイン属性:** サブコンテナ検索を有効にする場合、ユーザコンテナのサブツリーを検索するために使用されるログインの属性を指定する必要があります。

**SMTP サーバアドレス:** SMTP サーバの DNS 名または IP アドレスを指定し、レポート通知用の電子メールを設定します。

**SMTP サーバのポート:** SMTP サーバのポートのデフォルトポート 456 のままにするか、値を変更します。

**SMTP ユーザの電子メール:** 認証が有効になっている場合に、認証に使用する電子メールアドレスを指定します。

**SMTP ユーザのパスワード:** SMTP ユーザのパスワードを指定します。

**SMTP ユーザのパスワードの確認:** SMTP ユーザのパスワードを再入力します。

**デフォルトの電子メールアドレス:** レポートを実行するユーザが識別ボールドで電子メールアドレスが指定されていない場合に使用するデフォルトの電子メールアドレスを指定します。

**SMTP が SSL を使用 :** SMTP サーバが SSL 接続を使用する場合、このオプションを選択します。

**サーバに認証が必要 :** SMTP サーバに認証が必要な場合、このオプションを選択します。

### イベント監査サービス

次のフィールドに入力し、イベント監査サービスを設定します。

**Admin パスワード :** 管理ユーザのパスワードを指定します。

**管理者パスワードの確認 :** 管理者ユーザのパスワードを再入力します。

**データベース管理者のパスワード :** データベース管理者のパスワードを指定します。

**データベース管理者のパスワードの確認 :** データベース管理者のパスワードを再入力します。

### イベント監査サービス > 詳細

イベント監査サービスの環境設定をカスタマイズするには、[\[詳細\]](#) をクリックします。

**PostgreSQL のポート :** PostgreSQL のポートのデフォルト値である 15432 のままにするか、値を変更します。

**ポート転送の有効化 :** ポート転送を有効にするにはこのオプションを選択し、無効にするには選択解除します。

### iManager> 詳細

iManager には詳細な環境設定オプションのみがあります。これらのオプションを表示するには、[\[詳細\]](#) をクリックします。

**HTTP ポート :** 非セキュアポートのデフォルト値である 8080 のままにするか、値を変更します。

**HTTP セキュアポート :** セキュアポートのデフォルト値である 8443 のままにするか、値を変更します。

### 既存のツリーへの追加

表示されるフィールドは、前ページで設定対象に選択したコンポーネントに依存します。

- 1 このサーバを既存のツリーに追加するように選択した場合、次の情報を使用して Identity Manager のコンポーネントを設定します。
  - ◆ [31 ページの「識別ポータル」](#)
  - ◆ [31 ページの「識別ポータル > 詳細」](#)
  - ◆ [32 ページの「メタディレクトリサーバ」](#)
  - ◆ [32 ページの「Roles Based Provisioning Module \(RBPM\)」](#)
  - ◆ [33 ページの「Roles Based Provisioning Module \(RBPM\) > 詳細」](#)
  - ◆ [33 ページの「Identity Reporting Module」](#)
  - ◆ [33 ページの「イベント監査サービス」](#)
  - ◆ [34 ページの「iManager > 詳細」](#)

2 環境設定の概要ページを確認し、*[Done (完了)]* をクリックします。

環境設定中に問題が発生した場合、環境設定ログを確認します。詳細については、[35 ページの「ログファイルとプロパティファイルの場所」](#)を参照してください。

## 識別ポータル

次のフィールドに入力し、ご利用中のサーバが既存の識別ポータルに参加できるようにします。

**既存のサーバのアドレス :** 既存のツリー内のサーバの IP アドレスを指定します。

**既存のサーバのポート番号 :** 上で指定したサーバの NCP ポートを指定します。NCP のデフォルトポートは 524 です。

**既存のサーバのコンテキスト DN:** 既存のツリー内でこのサーバを配置するコンテナの DN を指定します。たとえば、「ou=server,o=system」などと指定します。

**既存のサーバの管理者 DN:** ツリーに対する完全な管理者権限を持つユーザの DN を指定します。

Windows では、既存のサーバ管理者名は既存のツリー管理者名であり、既存のサーバ管理者コンテキスト DN は既存のツリー管理者コンテキスト DN です。

**既存のサーバ管理者のパスワード :** 上で指定した管理者ユーザのパスワードを指定します。

## 識別ポータル > 詳細

この識別ポータルをカスタマイズするには、*[詳細]* を選択します。次のフィールドに入力し、識別ポータルをカスタマイズします。

**NCP ポート :** NCP ポートは、デフォルト値である 524 のままにするか値を変更します。NCP は、eDirectory のコア通信プロトコルです。

**LDAP ポート :** LDAP ポートは、デフォルト値である 389 のままにするか値を変更します。

**LDAP セキュアポート :** LDAP セキュアポートは、デフォルト値である 636 のままにするか値を変更します。

**HTTP ポート :** HTTP ポートは、デフォルト値である 8028 のままにするか値を変更します。

**HTTP セキュアポート :** HTTP セキュアポートは、デフォルト値である 8030 のままにするか値を変更します。

**インスタンスパス :** サーバが Linux/UNIX の場合、1 つのサーバ上で eDirectory の複数インスタンスを実行できます。サーバ上のこの eDirectory インスタンスのパスを指定します。デフォルトのパスは /var/opt/novell/eDirectory/data です。

**DIB パス :** eDirectory データベース (DIB) のパスを指定します。DIB のデフォルトの場所は次のとおりです。

- ◆ **Linux/UNIX:** /var/opt/novell/eDirectory/data/DIB
- ◆ **Windows:** c:\Novell\Identity Manager\NDS\DIBfiles\

---

**注:** DIB ファイルは、常に \NDS フォルダ内に存在する必要があります。Windows における DIB のデフォルトの場所を、たとえば \NDS\DIBFiles\ のように変更すると、メタディレクトリサーバの環境設定が失敗します。

---

**パスワードとの単純バインドに TLS を必要とする:** すべての LDAP 接続をセキュアポート (デフォルトは 636) で要求するには、このオプションを選択します。このオプションの選択を解除すると、平文ポート (デフォルトは 389) 上で LDAP サーバへの認証を行うユーザが平文で自分のパスワードを渡します。詳細については、『*Novell eDirectory 8.8 インストールガイド* (<http://www.novell.com/documentation/edir88/edirin88/data/a2iii88.html>)』の「LDAP を使用した eDirectory との通信」 (<http://www.novell.com/documentation/edir88/edirin88/data/a7f08y1.html>)」を参照してください。

**暗号化されたレプリケーションの有効化:** このオプションは、ツリーのレプリケーションを暗号化する場合に選択します。詳細については、『*Novell eDirectory 8.8 管理ガイド* (<http://www.novell.com/documentation/edir88/edir88/data/a2iii88.html>)』の「暗号化された複製」 (<http://www.novell.com/documentation/edir88/edir88/data/bs6rydy.html>)」を参照してください。

### メタディレクトリサーバ

**ドライバセット名:** メタディレクトリサーバの環境構成時に作成される新しいドライバセットの名前を指定します。既存のドライバセットは使用しないでください。

**ドライバセットのコンテキスト DN:** 新しいドライバセットがツリー内に作成されるコンテキストを指定します。

### Roles Based Provisioning Module (RBPM)

次のフィールドに記入し、Identity Reporting Module の一部である RBPM および Event Auditing Service (EAS) を設定します。

**EAS サーバアドレス:** EAS をホストするサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。このサーバを使用するか、別のサーバを追加できます。Identity Reporting Module は 1 つの EAS サーバ上でのみ設定できます。

**idmadmin DB のユーザパスワード:** データベースユーザのパスワードを指定します。このデータベースはレポート用の情報を保存します。

**ユーザアプリケーション管理者の DN:** ユーザアプリケーション管理者の DN を LDAP 形式で指定します。ユーザアプリケーション管理者は、Identity Manager ユーザアプリケーションのあらゆる管理機能を実施する権限があります。これらの機能には Identity Manager のユーザインタフェースの [Administration] タブにアクセスし、そこでサポートされるすべての管理アクションを実行することなどが含まれます。

---

**重要:** [User App admin DN]、[Security admin DN]、および [Report Admin DN] のフィールドには、異なる DN を指定してください。これらの DN がすでにプライマリサーバ上に存在している場合、ユーザアプリケーションの環境設定が失敗します。

---

**ユーザアプリケーション管理者のパスワード:** ユーザアプリケーションのパスワードを指定します。

**ユーザアプリケーションのドライバコンテナ DN:** ユーザアプリケーション管理者のルートコンテナ DN を LDAP 形式で指定します。

(オプション) **セキュリティ管理者の DN**: セキュリティ管理者の DN を LDAP 形式で指定します。この役割により、メンバーはセキュリティドメイン内のすべての機能を付与されます。セキュリティ管理者は、セキュリティドメイン内のすべてのオブジェクトで利用可能なあらゆるアクションを実行できます。

このフィールドは、Identity Manager Standard Edition でのみ必要です。

(オプション) **セキュリティ管理者のパスワード**: セキュリティ管理者のパスワードを入力します。

このフィールドは、Identity Manager Standard Edition でのみ必要です。

(オプション) **レポート管理者の DN**: レポート管理管理者の DN を LDAP 形式で指定します。このユーザにはセキュリティドメイン内のすべての機能が付与されています。レポート管理管理者は、レポート管理ドメイン内のすべてのオブジェクトであらゆるアクションを実行できます。

このフィールドは、Identity Manager Standard Edition でのみ必要です。

(オプション) **レポート管理者のパスワード**: レポート管理管理者のパスワードを入力します。

このフィールドは、Identity Manager Standard Edition でのみ必要です。

## Roles Based Provisioning Module (RBPM) > 詳細

RBPM の詳細な環境設定オプションは、新しいツリーと既存のツリーの環境設定で同じです。28 ページの「[Roles Based Provisioning Module \(RBPM\) > 詳細](#)」を参照してください。

RBPM の設定後にセカンダリサーバをインストールする際、次のようにユーザアプリケーションドライバの [Authentication ID] を変更する必要があります。

- 1 iManager 経由で既存のツリーにログインします。
- 2 [Identity Manager Administration] > [Identity Manager Overview] に移動し、ドライバセットを選択します。
- 3 ユーザアプリケーションドライバの [Edit Properties] オプションをクリックし、[Authentication ID] オプションの値をユーザアプリケーション管理者のものに LDAP 形式で変更します。

## Identity Reporting Module

Identity Reporting Module の環境設定オプションは、新しいツリーと既存のツリーの環境設定で同じです。詳細については、28 ページの「[Identity Reporting Module](#)」および 29 ページの「[Identity Reporting Module > 詳細](#)」を参照してください。

## イベント監査サービス

イベント監査サービスの環境設定オプションは、新しいツリーと既存のツリーの環境設定で同じです。詳細については、30 ページの「[イベント監査サービス](#)」および 30 ページの「[イベント監査サービス > 詳細](#)」を参照してください。

## iManager> 詳細

iManager の環境設定オプションは、新しいツリーと既存のツリーの環境設定で同じです。[30 ページの「iManager> 詳細」](#)を参照してください。

## 4.3 インストール後の処理

統合インストーラは、識別ボールド内に DirXML-PasswordPolicy オブジェクトを作成しません。このポリシーは、ツリー内の各 Identity Manager ドライバに割り当てられます。Identity Manager のインストールが完了したら、次の手順に従って DirXML-Password Policy オブジェクトを作成します。

- 1 次の属性を使用して LDIF ファイルを作成します。

```
dn: cn=DirXML-PasswordPolicy,cn=Password Policies,cn=Security
changetype: add
nsimPwdRuleEnforcement: FALSE
nspmSpecialAsLastCharacter: TRUE
nspmSpecialAsFirstCharacter: TRUE
nspmSpecialCharactersAllowed: TRUE
nspmNumericAsLastCharacter: TRUE
nspmNumericAsFirstCharacter: TRUE
nspmNumericCharactersAllowed: TRUE
nspmMaximumLength: 64
nspmConfigurationOptions: 596
passwordUniqueRequired: FALSE
passwordMinimumLength: 1
passwordAllowChange: TRUE
objectClass: nspmPasswordPolicy
```

```
dn: cn=driverset1,o=system #(driver-set dn, which the policy is assigned
to)
changetype: modify
add: objectclass
objectclass: nsimPasswordPolicyAux
```

```
dn: cn=driverset1,o=system #(driver-set dn, which the policy is assigned
to)
changetype: modify
add: nspmPasswordPolicyDN
nspmPasswordPolicyDN: cn=DirXML-PasswordPolicy,cn=Password
Policies,cn=Security
```

```
dn: cn=DirXML-PasswordPolicy,cn=Password Policies,cn=Security
changetype: modify
add: nsimAssignments
nsimAssignments: cn=driverset1,o=system #(driver-set dn, which the policy
is assigned to)
```

- 2 LDIF ファイルから属性をインポートするには、`ldapmodify` を使用します。

```
ldapmodify -x -ZZ -c -h <hostname> -p 389 -D "cn=admin,ou=sa,o=system" -w
<password> -f <ldif_file_name>
```

---

**注:** Windows の場合、統合インストーラの ISO ファイルに含まれる `ldapmodify.exe` ファイルを使用します。(例: `<II_ISO_Path>/install/utilities`)

---

## ログファイルとプロパティファイルの場所

次の表には、インストールログ (ii\_install.log)、環境設定ログ (ii\_configure.log)、およびプロパティファイルの場所が含まれています。インストールされているコンポーネントごとにプロパティファイルがあります。

表 4-2 インストールと環境設定後のログファイルとプロパティファイルの場所

プラットフォーム	ログファイル	インストールのプロパティファイル
Windows	< インストール場所 >install\logs デフォルトの場所： C:\Novell\IdentityManager\install\logs	< インストール場所 >install\propfiles デフォルトの場所： C:\Novell\IdentityManager\install\logs\propfiles\
Linux または Solaris	/var/opt/novell/idm/install/logs	/var/opt/novell/idm/install/logs/propfiles/

## 4.4 サイレントインストールと環境設定

- ◆ 35 ページのセクション 4.4.1 「サイレントインストール」
- ◆ 36 ページのセクション 4.4.2 「サイレント環境設定」

### 4.4.1 サイレントインストール

Identity Manager コンポーネントのサイレントインストールを実行するには、インストールを完了するのに必要なパラメータを含むプロパティファイルを作成する必要があります。Identity Manager のメディアにはサンプルファイルが含まれています。

- ◆ **Linux:** ./install/propfiles/install.properties
- ◆ **Solaris:** ./install/propfiles/install.properties
- ◆ **Windows:** \install\propfiles\install.properties

プラットフォームの正しいプログラムを使用して、サイレントインストール開始します。

- ◆ **Linux:** ./install.bin -i silent -f < ファイル名 >.properties
- ◆ **Solaris:** ./install.bin -i silent -f < ファイル名 >.properties  
バイナリファイルを実行するために、「./install.bin -i silent -f < ファイル名 >.properties」と入力します。
- ◆ **Windows:** \install.exe -i silent -f < ファイル名 >.properties

サイレントインストールは、環境変数として次のパスワード変数をサポートしています。パスワード変数が環境変数経由で渡されない場合、それらをサイレントプロパティファイルに追加する必要があります。

メタディレクトリサーバ: IA\_IDVAULT\_ADMIN\_PASSWORD

Roles Based Provisioning Module: IA\_RBPM\_POSTGRESQL\_DB\_PASSWORD および  
IA\_RBPM\_USERAPPADMIN\_PASSWORD

**Identity Reporting** モジュール : IA\_REPORTING\_NOVL\_DB\_USER\_PASSWORD、  
IA\_REPORTING\_IDM\_USER\_PASSWORD、および  
IA\_REPORTING\_IDM\_SERVER\_PASSWORD

イベント監査サービス : IA\_EAS\_ADMIN\_PWD and IA\_EAS\_DBA\_PWD

## 4.4.2 サイレント環境設定

環境設定を完了するのに必要なパラメータを含むプロパティファイルを作成することによって、Identity Manager コンポーネントのサイレントインストールを実行できます。以下では、Identity Manager のメディアに含まれている 2 つのサンプルファイルについて説明します。1 つは、新しいツリーを作成する場合に使用され、もう 1 つは、このサーバを既存のツリーに追加する場合に使用されます。

- ◆ **Linux:** 次の場所を参照してください。
  - ◆ ./install/propfiles/configure\_new\_tree.properties
  - ◆ ./install/propfiles/configure\_existing\_tree.properties
- ◆ **Solaris:** 次の場所を参照してください。
  - ◆ ./install/propfiles/configure\_new\_tree.properties
  - ◆ ./install/propfiles/configure\_existing\_tree.properties
- ◆ **Windows:** 次の場所を参照してください。
  - ◆ \install\propfiles\configure\_new\_tree.properties
  - ◆ IDM4.0.1\_Win:\install\propfiles\configure\_existing\_tree.properties

プラットフォームの正しいプログラムを使用し、サイレント設定を開始します。

- ◆ **Linux:** ./configure.bin -i silent -f < ファイル名 >.properties
- ◆ **Solaris:** ./configure.bin -i silent -f < ファイル名 >.properties  
バイナリファイルを実行するために、「./configure.bin -i silent -f < ファイル名 >.properties」と入力します。
- ◆ **Windows:** \configure.exe -i silent -f < ファイル名 >.properties

install\propfiles の場所から利用できるサンプルのプロパティファイルは、すべてのコンポーネントが 1 回の実行で設定される場合のみ使用できます。

必須パラメータを表示するには、次のコマンドを実行します。

```
./install/bin -i silent -DSELECTED_PRODUCTS=< 設定するコンポーネント >
```

プロパティファイルの中には、Identity Manager コンポーネントの ID の説明が含まれています。

選択したコンポーネントのサイレント設定を行うには、上記のコマンドの出力結果が含まれるプロパティファイルを作成し、設定するコンポーネントを SELECTED\_PRODUCTS で追加して、サイレントインストールコマンドを再実行します。

# Novell Identity Manager 製品を有効にする

# 5

このセクションの情報は、Identity Manager コンポーネントでアクティベーションが動作する仕組みについて説明します。Identity Manager コンポーネントは、インストール後 90 日以内にアクティベートする必要があります。そうしないと、90 日後にシャットダウンします。90 日以内のいつでも、またはその後でも、Identity Manager 製品をアクティベートするよう選択できます。

次のタスクを完了すると、Identity Manager コンポーネントを有効にできます。

- ◆ 37 ページのセクション 5.1 「Identity Manager 製品のライセンスの購入」
- ◆ 37 ページのセクション 5.2 「プロダクトアクティベーションキーのインストール」
- ◆ 38 ページのセクション 5.3 「Identity Manager およびドライバのプロダクトアクティベーションの表示」
- ◆ 39 ページのセクション 5.4 「Identity Manager のドライバの有効化」
- ◆ 40 ページのセクション 5.5 「Analyzer の有効化」
- ◆ 40 ページのセクション 5.6 「Designer および役割マッピング管理者の有効化」

## 5.1 Identity Manager 製品のライセンスの購入

Identity Manager 製品ライセンスを購入し、製品をアクティブ化するには、[Novell Identity Manager 購入方法 Web ページ \(http://www.novell.com/products/identitymanager/howtobuy.html\)](http://www.novell.com/products/identitymanager/howtobuy.html) を参照してください。

製品のライセンスを購入いただくと、Novell より電子メールでカスタマ ID が送信されます。電子メールには、プロダクトアクティベーションキーを入手可能な Novell サイトの URL も含まれています。カスタマ ID を記憶したり受信したりするのがご面倒なお客様は、Novell Activation Center まで米国内からは 1-800-418-8373、米国外からは 1-801-861-8373 の番号までお電話ください (801 のエリアコードをご使用の場合は通話に課金されます)。また、[オンラインチャット \(http://support.novell.com/chat/activation\)](http://support.novell.com/chat/activation) も利用できます。

## 5.2 プロダクトアクティベーションキーのインストール

プロダクトアクティベーションキーは、iManager を使用してインストールする必要があります。

- 1 ライセンスを購入すると、Novell からカスタマ ID の電子メールが送信されます。電子メールの「注文の詳細」セクションには、資格情報を入手可能なサイトへのリンクが含まれています。リンクをクリックすると、サイトに移動します。
- 2 ライセンスのダウンロードリンクをクリックして、以下のいずれかを実行します。
  - ◆ プロダクトアクティベーションキーファイルを便利な場所に保存します。または

- ◆ プロダクトアクティベーションキーファイルを開き、プロダクトアクティベーションキーの内容をクリップボードにコピーします。

注意深く内容をコピーし、余分な線やスペースが含まれないようにします。資格情報の最初のダッシュ (-) から (---BEGIN PRODUCT ACTIVATION CREDENTIAL) 資格情報の最後のダッシュ (-) まで (END PRODUCT ACTIVATION CREDENTIAL----) をコピーする必要があります。

---

**警告:** アクティベーションされていない既存の Advanced Edition システムに Standard Edition のアクティベーションを適用すると、Identity Manager メタディレクトリサーバとドライバが停止します。

---

- 3 iManager を開きます。
- 4 [Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順に選択します。
- 5  をクリックし、ツリー構造でドライバセットを参照して選択します。
- 6 [Identity Manager の概要] ページで、アクティブにするドライバを含むドライバセットをクリックします。
- 7 [ドライバセットの概要] ページで、[アクティベーション] > [インストール] の順にクリックします。
- 8 Identity Manager コンポーネントをアクティブにするドライバセットを選択して、[次へ] をクリックします。
- 9 次のいずれかの操作を行います。
  - ◆ Identity Manager アクティベーションキーを保存した場所を指定し、[次へ] をクリックします。  
または
  - ◆ Identity Manager アクティベーションキーの内容をテキスト領域に貼り付け、[次へ] をクリックします。
- 10 [完了] をクリックします。

---

注: ドライバが含まれるドライバセットごとに有効にする必要があります。資格情報によってツリーを有効にできます。

---

## 5.3 Identity Manager およびドライバのプロダクトアクティベーションの表示

各ドライバセットについて、メタディレクトリエンジンおよび Identity Manager ドライバ用にインストールしたプロダクトアクティベーション資格情報を表示できます。

- 1 iManager を開きます。
- 2 [Identity Manager] > [Identity Manager の概要] の順にクリックします。
- 3  をクリックし、ツリー構造でドライバセットを参照して選択してから、 をクリックして検索を実行します。
- 4 [Identity Manager の概要] ページで、アクティベーション情報を表示するドライバセットをクリックします。

5 [ドライバセットの概要] ページで、[アクティベーション] > [情報] の順にクリックします。

アクティベーションキーのテキストを参照できます。エラーが報告された場合は、アクティベーションキーを削除できます。

---

**注:** ドライバセットの有効なプロダクトアクティベーションキーをインストールした後も、ドライバ名の横に「アクティベーションが必要です」と表示されることがあります。この場合、ドライバを再起動するとこのメッセージは消えます。

---

## 5.4 Identity Manager のドライバの有効化

Identity Manager の購入には、サービスドライバといくつかの一般的なドライバのアクティベーションが含まれています。

- ◆ **サービスドライバ:** メタディレクトリサーバを起動すると、次のサービスドライバが有効になります。
  - ◆ データ収集サービス
  - ◆ エンタイトルメントサービス
  - ◆ ID プロバイダ
  - ◆ ループバックサービス
  - ◆ Managed System Gateway
  - ◆ 手動タスクサービス
  - ◆ Null サービス
  - ◆ 役割サービス
  - ◆ ユーザアプリケーション
  - ◆ WorkOrder
- ◆ **共通ドライバ:** メタディレクトリサーバを起動すると、次の一般的なドライバが有効になります。
  - ◆ Active Directory
  - ◆ ADAM
  - ◆ eDirectory
  - ◆ GroupWise
  - ◆ LDAP
  - ◆ Lotus Notes

他のすべての Identity Manager ドライバのアクティベーションは別途購入する必要があります。ドライバのアクティベーションは、Identity Manager 統合モジュールとして販売されています。Identity Manager 統合モジュールには、1 つまたは複数のドライバを含めることができます。購入した Identity Manager 統合モジュールごとにプロダクトアクティベーションキーが提供されます。

Identity Manager 統合モジュールごとに [37 ページのセクション 5.2 「プロダクトアクティベーションキーのインストール」](#) の手順を実行し、ドライバを有効化する必要があります。

## 5.5 Analyzer の有効化

Analyzer を初めて起動すると、有効化するようにプロンプトが表示されます。アクティベーションを入力しないと Analyzer を使用できません。詳細については、「[Analyzer 4.0.1 for Identity Manager 管理ガイド](#)」の「[Analyzer の有効化](#)」を参照してください。

## 5.6 Designer および役割マッピング管理者の有効化

Designer および役割マッピング管理者は、メタディレクトリサーバまたはドライバを有効化するだけで済み、追加作業は必要ありません。

# Identity Manager のアップグレード

# 6

Identity Manager コンポーネントは統合インストーラではアップグレードできません。Identity Manager 4.0.1 にアップグレードするための個別製品のインストーラを使用します。Identity Manager 4.0.1 Standard Edition から Advanced Edition へのアップグレードには、設定のみ変更する別のアップグレード手順があります。このアップグレードには Identity Manager インストーラを実行する必要はありません。Identity Manager のアップグレードの詳細については、『[Identity Manager 4.0.1 Upgrade and Migration Guide](#)』の「[Upgrading](#)」セクションを参照してください。



# Identity Manager のトラブルシューティング

# 7

統合インストーラを使用して Identity Manager をインストールする際には、以下の情報に留意してください。

- ◆ 43 ページの「インストールの問題」
- ◆ 44 ページの「環境設定時の必須パラメータの引き渡し」
- ◆ 44 ページの「hosts ファイルに 127.0.0.2 のエントリが含まれている場合、環境設定が失敗する」
- ◆ 45 ページの「インストーラによって java.io.FileNotFoundException がスローされる」
- ◆ 45 ページの「ツリー名がすでに存在する場合、ツリー名が自動生成される」
- ◆ 45 ページの「セカンダリサーバのインストール」
- ◆ 45 ページの「サービスが実行されていない」
- ◆ 45 ページの「システムの現在の状態を検出する」
- ◆ 45 ページの「Windows で Identity Manager のアンインストール中に統合インストーラが停止することがある」
- ◆ 46 ページの「Windows ランタイム配布によるインストール時に、インストール障害のために強制的に再起動する可能性がある」
- ◆ 46 ページの「UNIX 上でサードパーティ製の ISO 抽出ツールを使用して抽出された ISO の環境設定」
- ◆ 46 ページの「XDAS を有効化するとパフォーマンスが低下する」
- ◆ 46 ページの「Identity Manager コンポーネントのアンインストールの問題」

## インストールの問題

アクション: Identity Manager のインストール時にエラーが発生した場合、ご利用のプラットフォームに応じて、次のログファイルを参照してください。

- ◆ **Linux または Solaris:** /var/opt/novell/idm/install/logs/
- ◆ **Windows:** デフォルトの場所 : C:\novell\IdentityManager\install\logs\。ログファイルの場所は、指定したインストール場所に基づいて変更することができます。

アクション: 一般的な障害を検出するには、インストールの問題に関しては ii\_install.log ファイルを、環境設定の問題に関しては ii\_configure.log ファイルを、アップグレードの問題に関しては ii\_upgrade.log ファイルを、アンインストールの問題に関しては ii\_uninstall.log ファイルを参照してください。ログファイルの中で、exit value = xxx というテキストを探します。値が 0 でない場合、特定のコマンドの実行が失敗し、ログファイルが生成されました。障害の詳細については、そのログファイルを参照してください。

たとえば、ログファイルが次の内容だとします。

```
"/home/siva/build/products/Reporting/IDMReport.bin" -  
DIA_USER_JRE_HOME="/opt/nov  
ell/idm/jre" -i silent -f "/tmp/  
idmreporting_configure.properties"  
execute command  
    exitValue = 1  
log file location  :/tmp/idmreporting_configure.properties  
log file location  :/opt/novell/idm/rbpm/IDMReporting//  
RPT_Install.log
```

ii\_install.log ファイルからの上記の抜粋は、exitValue が 1 (ゼロでない) のでコマンドが失敗したことを示します。詳しい分析については、コマンドに表示されている /opt/novell/idm/rbpm/IDMReporting/RPT\_Install.log を参照してください。

### 環境設定時の必須パラメータの引き渡し

原因: 環境設定時、環境設定パラメータを指定すると、インストーラが次のエラーメッセージを表示する場合があります。

```
Some of the inputs are not proper. They are highlighted in  
Red.
```

考えられる原因: 強調表示されたパラメータによると、エラーメッセージの原因は次のいずれかである可能性があります。

- ◆ ポート番号がすでに使用されている。
- ◆ 渡された DNS ホスト名が無効である。
- ◆ DN 形式が正しくない。

アクション: 次の操作を実行してください:

- ◆ ポートがすでに使用されている場合は別のポート番号を使用する。
- ◆ 有効な DNS 名を指定するか、DNS 名の指定を望まない場合は有効な IP アドレスを指定します。
- ◆ 有効な DN が LDAP 形式で指定されていることを確認します。

### hosts ファイルに 127.0.0.2 のエントリが含まれている場合、環境設定が失敗する

考えられる原因: /etc/hosts ファイルに 127.0.0.2 loopback アドレスのエントリが含まれている場合、127.0.0.2 loopback アドレス用にデフォルトの IP 証明書が作成されます。

アクション: 回避策には、次の 2 種類があります。

- ◆ ファイル hosts ファイルに 127.0.0.2 loopback アドレスのエントリが含まれている場合、/etc/hosts ファイルを編集します。

たとえば、「127.0.0.2 ホスト名」などです。この部分をコメントアウトし、実際の IP アドレスのエントリがファイルに含まれるようにしてください。

## インストーラによって `java.io.FileNotFoundException` がスローされる

考えられる原因: システムの `tmp` ディレクトリが存在しない場合、インストーラの起動直後にインストーラによってこの例外がスローされます。

アクション システムの `tmp` ディレクトリを作成します。

## ツリー名がすでに存在する場合、ツリー名が自動生成される

原因: 統合インストーラは、そのツリー名がすでに存在する場合、自動的にそのツリー名を生成しようとします。

## セカンダリサーバのインストール

説明: 統合インストーラは、セカンダリサーバのすべてのインストールにおいて、サーバオブジェクトを保持するレプリカを追加します。インストーラはレプリカがオンになるのを待機します。

## サービスが実行されていない

説明: 必要とするポートが占有されているために、一部のサービスが実行されないことがあります。

アクション: 次のポートが空いていることをインストールの開始前に確認します。  
`netstat -anp | egrep` コマンドを実行し、これらのポートが空いているかどうか確認します。

```
netstat -anp | egrep
': (524|389|636|8028|8030|8090|8000|7707|8006
|8009|8081|8443|8009|8080|8443|1199|1198|119
0|3973|4544|4545|4546|4557|4812|4813|8109|81
83|8180|8543|29007|37022|8180|10013|10014|61
616|61617|1514|15432|5556|1289|1443|1468)'
```

## システムの現在の状態を検出する

説明: インストーラの状態ファイルは必ずバックアップしてください。統合状態ファイルとは、システム、インストールされたコンポーネント、設定されたコンポーネント、またはアンインストールされたコンポーネントの現在の状態などの情報についてインストーラが使用する重要な環境設定ファイルです。

アクション: 状態ファイルを次のようにバックアップします。

- **Linux または Solaris:** `/etc/opt/novell/idm/install/conf/install_state.conf` を実行します。
- **Windows:** `C:\Novell\conf\install_state.conf` を実行します。

## Windows で Identity Manager のアンインストール中に統合インストーラが停止することがある

考えられる原因: インストーラは、Identity Manager をアンインストールする前に、すべての従属サービスを停止しようとします。他のサービスが DHost に依存しているため、インストーラが DHost サービスを停止できない場合があります。

アクション: 次の手順に従って、識別ボルトのアンインストール中にインストーラが停止したかを確認します。

- 1 [コントロールパネル] に移動し、[Novell eDirectory Services] を開いて [Startup] ボタンをクリックします。インストーラが停止する場合、次のメッセージが表示されます。

Novell eDirectory Service is in a NT service Stop Pending State.

- 2 アンインストールを続行するには、タスクマネージャから手動で DHost サービスを停止します。

## Windows ランタイム配布によるインストール時に、インストール障害のために強制的に再起動する可能性がある

説明: <インストール場所>\ii\_install.log ファイルに次のメッセージが表示され、メタディレクトリのインストールが失敗します。

```
:\Users\Administrator\IDM4\products\eDirectory\x64\windows\x64\redist_pkg\vcredist_x86.exe" /q:a /c:"msiexec /i vcredist.msi /qn /l C:\Users\ADMINI~1\AppData\Local\Temp\vcredist32_Windows_x64_Install.log" execute command exitValue = 3010
```

アクション: vcredist 実行可能ファイルによって返される 3010 エラーコードは成功を意味し、Windows マシンを再起動する必要があります。再起動プロセスの終了後、インストーラを再起動するとインストールが正常に続行されます。マシンを再起動しても、以前の正常なインストールには影響しません。

## UNIX 上でサードパーティ製の ISO 抽出ツールを使用して抽出された ISO の環境設定

説明: UNIX 上でサードパーティ製の ISO 抽出ツールを使用して ISO を抽出した場合、Identity Manager 4.0.1 統合インストーラの設定が失敗します。

アクション: 環境設定を正常に行うには、mount -o loop コマンドを使用します。

## XDAS を有効化するとパフォーマンスが低下する

考えられる原因: XDAS イベントログ記録を有効にすると、SLP の環境設定を行わない状態では Identity Manager のエンジンの性能が低下します。

アクション: パフォーマンスに影響が及ばないように、SLP を正しく設定し、実行する必要があります。

## Identity Manager コンポーネントのアンインストールの問題

原因: アンインストール中に 1 つ以上のコンポーネントのアンインストールに失敗する場合に、アンインストールを再試行すると [Uninstall] オプションが無効になります。Windows でアンインストールが失敗する理由の 1 つとして、JAVA\_HOME および PATH 変数が設定されていないことが考えられます。

アクション: 次のように個々のコンポーネントのアンインストーラを実行します。

- ◆ **Linux または Solaris:** 個々のコンポーネントをアンインストールするには、次のコマンドを実行します。
  - ◆ **メタディレクトリ : Identity Manager framework のアンインストール:**  

```
/root/idm/Uninstall_Identity_Manager/  
Uninstall_Identity_Manager
```

識別ポールのアンインストール:  

```
/opt/novell/eDirectory/sbin/nds-uninstall
```
  - ◆ **JBoss:** 次のコマンドを実行します。  

```
$IA_RBPM_POSTGRESQL_INSTALL_PATH$/  
JBossPostgreSQL_Uninstaller/Uninstall_JBossPostgreSQL
```
  - ◆ **Roles Based Provisioning Module:** 次のコマンドを実行します。  

```
java -jar /opt/novell/idm/rbpm/RemoveUserApp/  
uninstaller.jar
```
  - ◆ **Identity Reporting モジュール:** 次のコマンドを実行します。  

```
/opt/novell/idm/rbpm/Uninstall_Identity_Reporting/  
Uninstall_Identity_Reporting
```
  - ◆ **イベント監査サービス:** 次のコマンドを実行します。  

```
/opt/novell/sentinel_eas/Uninstall_Event_Auditing  
Service/Uninstall_Event_Auditing_Service
```
  - ◆ **役割マッピング管理者:** 次のコマンドを実行します。  

```
/opt/novell/idm/rma/rma-uninstall.sh -s
```
  - ◆ **Designer:** 次のコマンドを実行します。  

```
/opt/novell/idm/Designer/UninstallDesigner/Uninstall  
Designer_for_Identity_Manager
```
  - ◆ **Analyzer:** 次のコマンドを実行します。  

```
/opt/novell/idm/Analyzer/UninstallAnalyzer/Uninstall  
Analyzer_for_Identity_Manager
```
  - ◆ **iManager:** 次のコマンドを実行します。  

```
/var/opt/novell/tomcat5/webapps/nps/UninstallerData/  
UninstalliManager
```
- ◆ **Windows:** 役割マッピング管理者を除くすべてのコンポーネントは、*[Windows]* > *[プログラムの追加と削除]* からアンインストールします。役割マッピング管理者をアンインストールするには、コマンドプロンプトから `C:\novell\IdentityManager\RMA\rma-uninstall.bat` を実行します。



# Identity Manager のアンインストール

# 8

アンインストールスクリプトは、統合インストーラを使用してインストールされたすべての Identity Manager コンポーネントをアンインストールします。1つのコンポーネントをアンインストールする場合は、「[Identity Manager 4.0.1 Framework インストールガイド](#)」の「[Identity Manager のアンインストール](#)」を参照してください。

## 8.1 GUI のアンインストール

統合アンインストーラが呼び出される前に、JAVA\_HOME および PATH 環境変数が Java を指していることを確認してください。

Identity Manager コンポーネントをアンインストールするには

- 1 ご利用中のプラットフォーム用の正しいプログラムを使用してアンインストールを実行します。

- ◆ **Linux または Solaris:** ./Uninstall\_Identity Manager Components.bin

バイナリファイルは、/opt/novell/idm/Uninstall\_Identity Manager Components/Uninstall Identity Manager Components.bin に保存されています。

- ◆ **Windows:** Uninstall\_Identity Manager Components.exe

アンインストーラは、<インストール場所>\Uninstall\_Identity Manager Components\Uninstall\_Identity Manager Components.exe に保存されています。プログラムの [追加と削除] をクリックし、Identity Manager コンポーネントをアンインストールします。

---

**注:** 識別ポートをアンインストールしても、すべてのファイルが削除されるわけではありません。詳細については、[eDirectory のアンインストールマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/edir88/edirin88/data/bnn8twh.html\)](http://www.novell.com/documentation/edir88/edirin88/data/bnn8twh.html) を参照してください。

---

- 2 アンインストールする各コンポーネントのチェックボックスをオンにし、[次へ] をクリックします。
- 3 これらの各コンポーネントの資格情報を LDAP 形式で指定し、[次へ] をクリックします。

アンインストーラは、アンインストール前に、コンポーネントの設定を解除するための資格情報が必要です。
- 4 コンポーネントのアンインストールに関する概要を確認し、[アンインストール] をクリックします。

コンポーネントのいずれかを変更する必要がある場合、[前へ] をクリックし、それらの変更を加えます。
- 5 正常にアンインストールされたコンポーネントのリストを表示する [Uninstall Complete Summary (アンインストール完了の概要)] ページを確認し、[Done (完了)] をクリックしてアンインストールのプロセスを完了します。

## 8.2 サイレントアンインストール

Identity Manager コンポーネントのサイレントアンインストールを実行するには、アンインストールを完了するのに必要なパラメータを含むプロパティファイルを作成する必要があります。Identity Manager のメディアにはサンプルファイルが含まれています。

- ◆ **Linux:** `./install/propfiles/uninstall.properties`
- ◆ **Solaris:** `./install/propfiles/uninstall.properties`
- ◆ **Windows:** `\install\propfiles\uninstall.properties`

プラットフォームの正しいプログラムを使用して、サイレントアンインストール開始します。

- ◆ **Linux:** `/opt/novell/idm/Uninstall_Identity Manager Components/Uninstall Identity Manager Components.bin -i silent -f <ファイル名>.properties`
- ◆ **Solaris:** `/opt/novell/idm/Uninstall_Identity Manager Components/Uninstall Identity Manager Components.bin -i silent -f <ファイル名>.properties`
- ◆ **Windows:** `<install location>\Uninstall_Identity Manager Components/Uninstall Identity Manager Components.exe -i silent -f <ファイル名>.properties`